

高校生アンケート結果

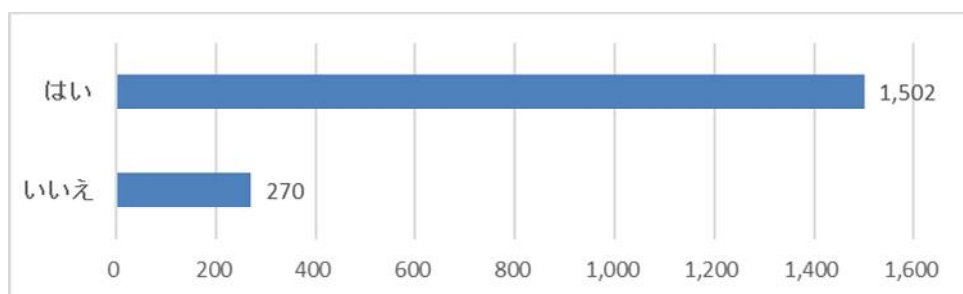
自転車の安全利用について、現役高校生はどのように考えているのでしょうか。
今回、12次計画を策定するに当たり、県内14校、合計で1,772人の現役高校生に、
自転車の安全利用について、アンケート調査（ヒアリング調査）を行いました。
結果は下記のとおりです。

- 1 調査時期 令和7年12月～令和8年1月
- 2 調査対象校 県内14校（県立高校9校、市立高校1校、私立高校4校）
- 3 調査対象者
1年生 845人 2年生 663人 3年生 264人 合計1,772人

4 調査結果

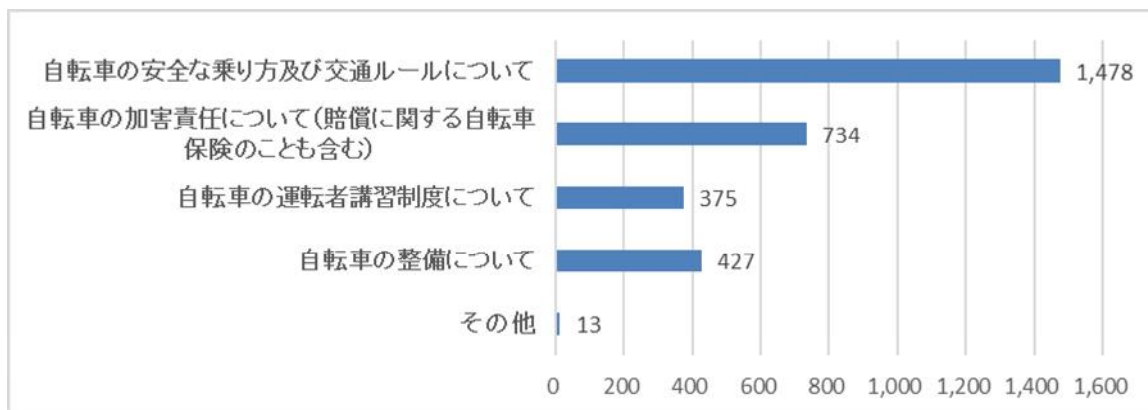
①自転車の交通安全教育について

◆自転車の交通安全教育を受けたことがありますか。



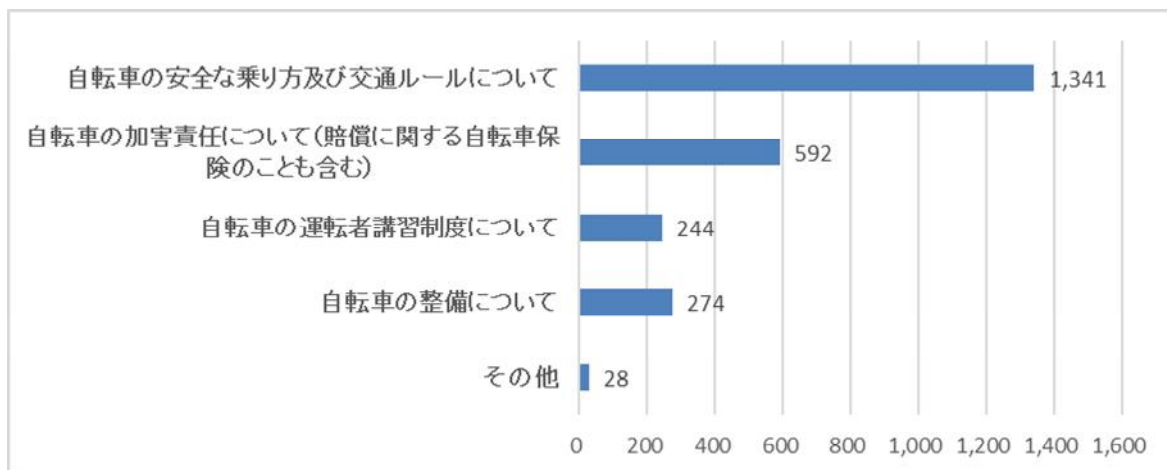
自転車の交通安全教育を受けたことがある生徒が約85%、受講していないと回答した生徒が約15%でした。

◆どのような交通安全教育を受けたことがありますか。(複数回答)



自転車の安全な乗り方及び交通ルールについて学んだ、という回答が圧倒的に多かったですが、自転車の加害責任について(賠償に関する自転車保険のことも含む)学んだという回答も、約 41%いました。

◆どのような交通安全教育が効果的でしたか。(複数回答)



どのように効果的だったかを、具体的な内容についても聞いたところ、自転車の基本的な乗り方(左側通行や一時停止)や、イヤホン・スマホが禁止されていること、自らも加害者になってしまう可能性があること(加害者となった際の賠償責任の重さ)、自転車乗車用ヘルメット着用の必要性などについて、よくわかった、という回答がありました。

[具体的な内容]

①安全な乗り方について

<p>自転車も自動車と同様、左側通行ということ ブレーキの作動確認など ヘルメットの意識、重要性 一時停止について 自転車も車両の一種であるということ 自動車と接触した際に、思ったよりも人が飛んでいくということ 公道でのマナー 自身が被害者にも加害者にもなり得ること ルールで決まってはいるが、安全のためにした方がよいこと 自分が知らないルールや最近追加されたルールが知れたこと</p>	<p>スマホやイヤホンを付けながら乗るのをやめた 乗車時にルールを意識して乗るようになった インストラクターの人が目の前で事故の再現をしてくれたため、事故の危険性や事故が起こる状況がイメージしやすくなった。 自動車に乗っている人から見る（自転車の）景色 乗車時の確認事項が増えた 責任意識や罰則に関してのルールなどを把握させることで、注意して走行できた。</p>
---	---

②自転車の加害責任について

<p>今後の人生に大きな影響を与える可能性 自分が加害者になった時の責任 実際にどれくらいのお金がかかってしまうか知れた</p>	<p>もし加害者になってしまったら、被害だけでなく家族にも悪い影響を及ぼしてしまうことを知れた</p>
--	---

③自転車の運転者講習制度について

<p>自転車の乗り方などが年々厳しくなってどんな事がダメとかわからなくなってしまうので改めて正しい自転車の乗り方を学習することができ不安なことが減った。</p>	<p>新しいルールを学べた</p>
--	-------------------

④自転車の整備について

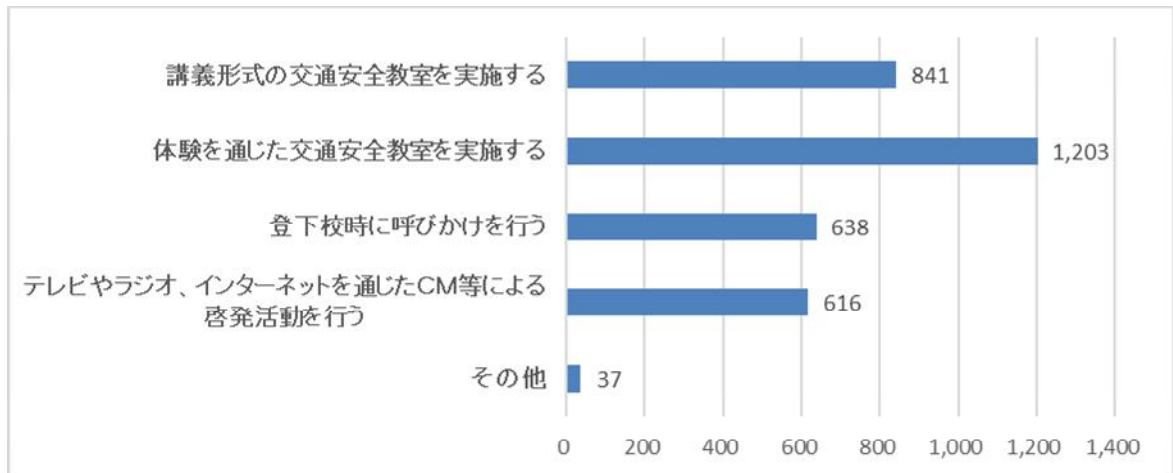
<p>自転車の軽微な損傷を自分で直せるようになったため</p>	<p>しっかり自転車の整備をしないと事故になることが多いこと知った</p>
---------------------------------	---------------------------------------

⑤その他

<p>自転車と車がぶつかりどれほどの衝撃があるのか目の前で見てどれほど危険なのか知れた</p>	<p>実際にどういった事故がどういった場面で起こるのかわかった</p>
---	-------------------------------------

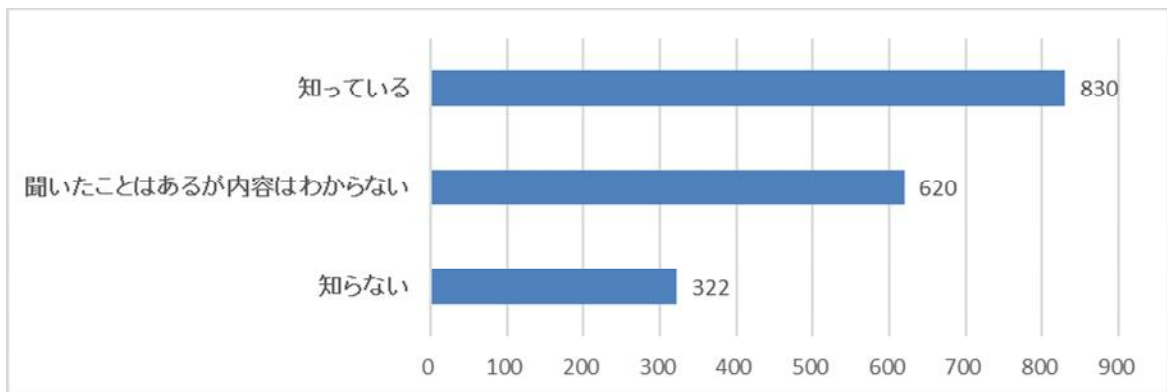
②自転車のルール等について

- ◆高校生等に自転車のルールやマナーを守ってもらうために、効果的な方法はどのようなものが考えられますか。（3つまで）



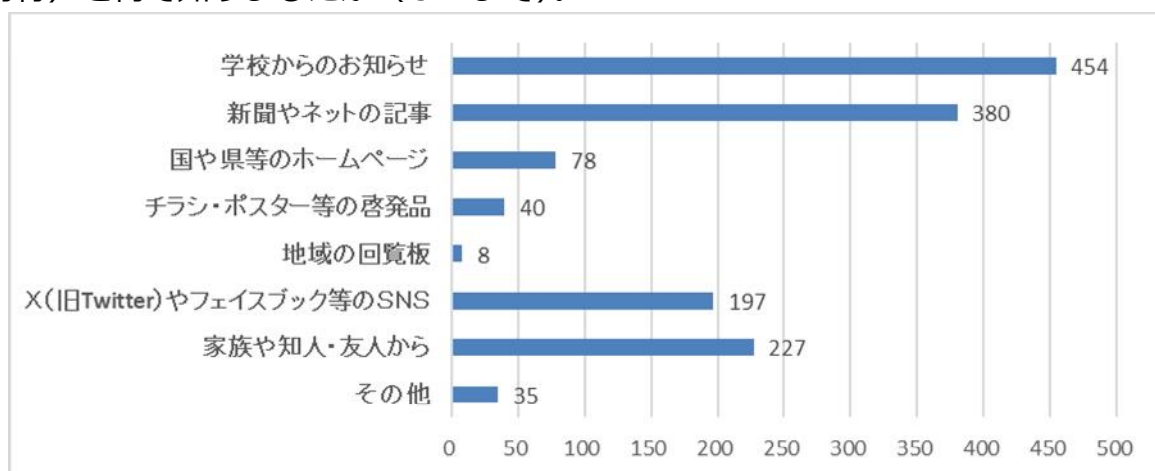
「体験を通じた交通安全教室の実施」が最も多く、次いで「講義形式の交通安全教室を実施する」が効果的であると考えられていることがわかりました。

- ◆自転車の交通反則通告制度（青切符）が令和8年4月から開始されることを知っていますか。



自転車の交通反則通告制度（青切符）が令和8年4月から開始されることについて知っている人が、知らない（「聞いたことはあるが内容はわからない」含む）人（約53%）が、知っている人（約47%）よりも多いことがわかりました。

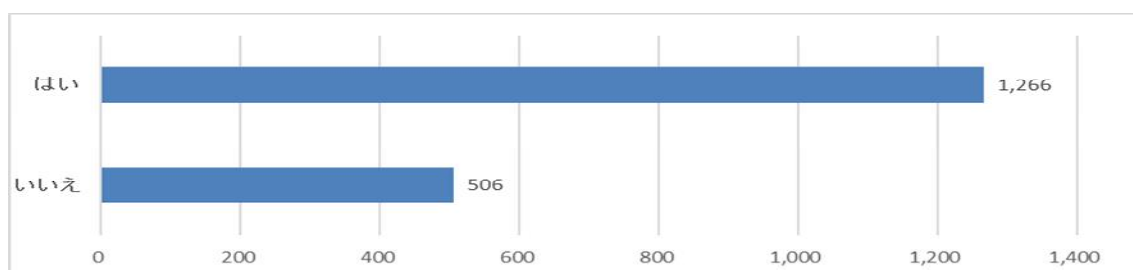
- ◆（前の質問で「知っている」と回答した人に対して）自転車の交通反則通告制度（青切符）を何で知りましたか（3つまで）。



「学校からのお知らせ」が最も多く、次いで「新聞やネットの記事」によって知った人が多いことがわかりました。また、「家族や知人・友人」や「X（旧 Twitter）やフェイスブック等の SNS」によって知った人も一定数いることがわかりました。

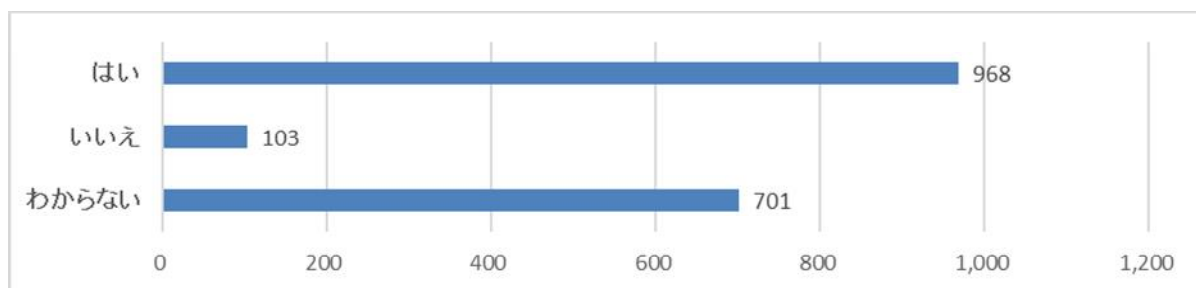
③自転車保険について

- ◆千葉県では、条例により自転車事故により生じる損害賠償責任に備えて自転車保険へ加入することが義務化されていますが、義務化されていることを知っていましたか。



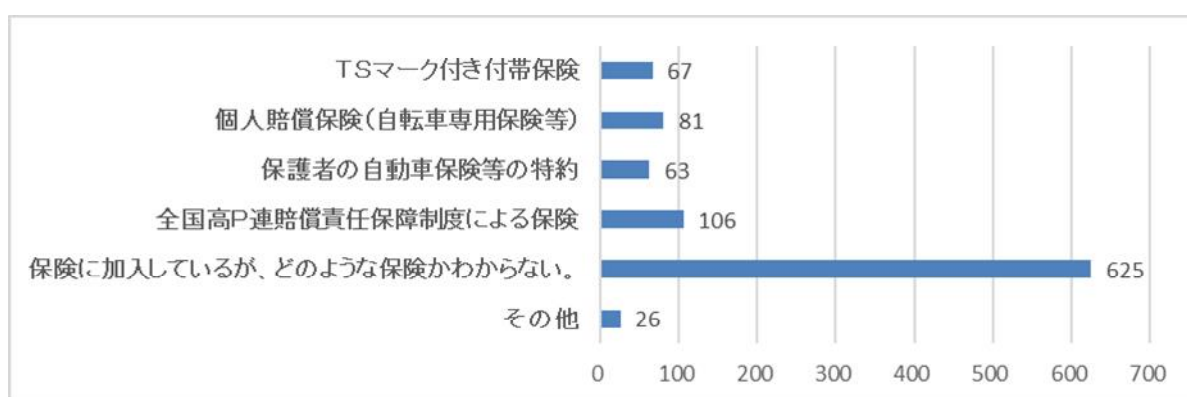
千葉県では自転車保険の加入が義務化されていることを知っている人は約1,200人で、全体の約7割であることがわかりました。

◆あなたは自転車保険に加入していますか。



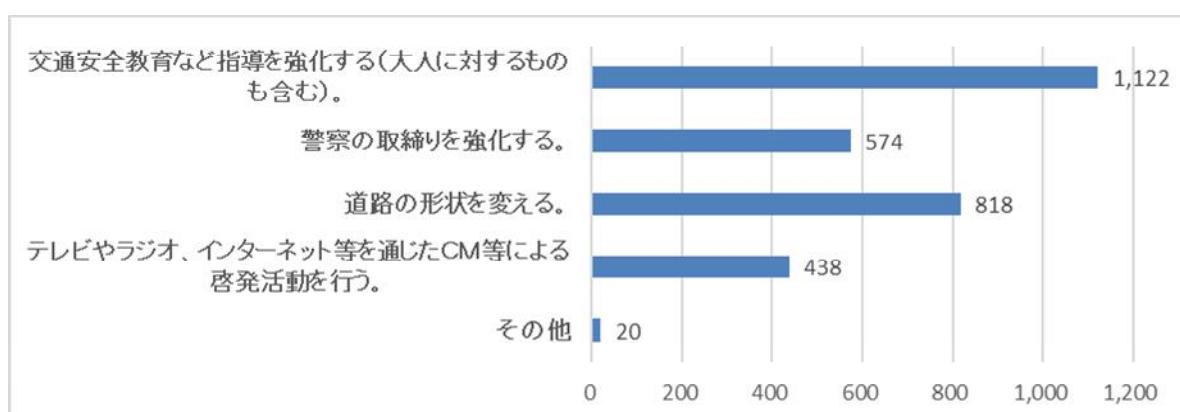
自転車保険に加入している人は全体の半数以上でしたが、全体の約40%が自転車の保険状況がわからないことがわかりました。なお、加入していないと回答した人に加入しない人に理由を聞いたところ、「保険があることを知らなかった」「通学以外であまり乗らないから」「お金がかかるから」などが上げられました。

◆(前の質問で「はい」と回答した人に対して) どのような保険に加入していますか。



どのような保険に加入しているかについては、「加入しているがどのような保険かわからない」という回答が圧倒的に多かった。

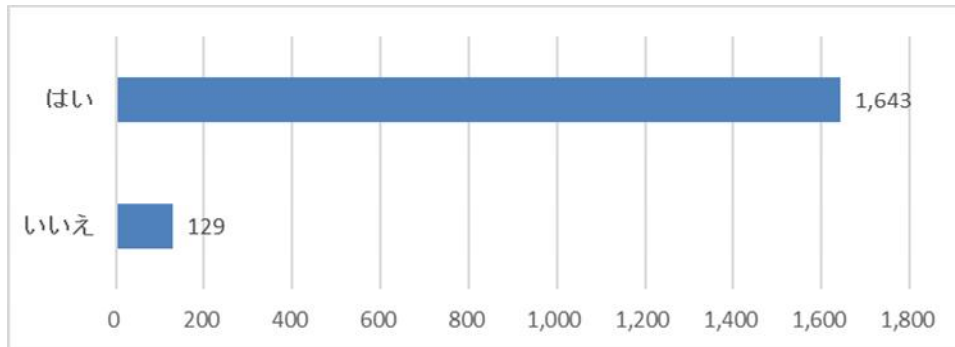
④自転車を安全に利用するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)



自転車を安全に利用するために必要なことを聞いたところ、「交通安全教育など指導を強化する(大人に対するものも含む)」が最も多く、次いで「道路の形状を変える」「警察の取締りを強化する」が多い結果となりました。

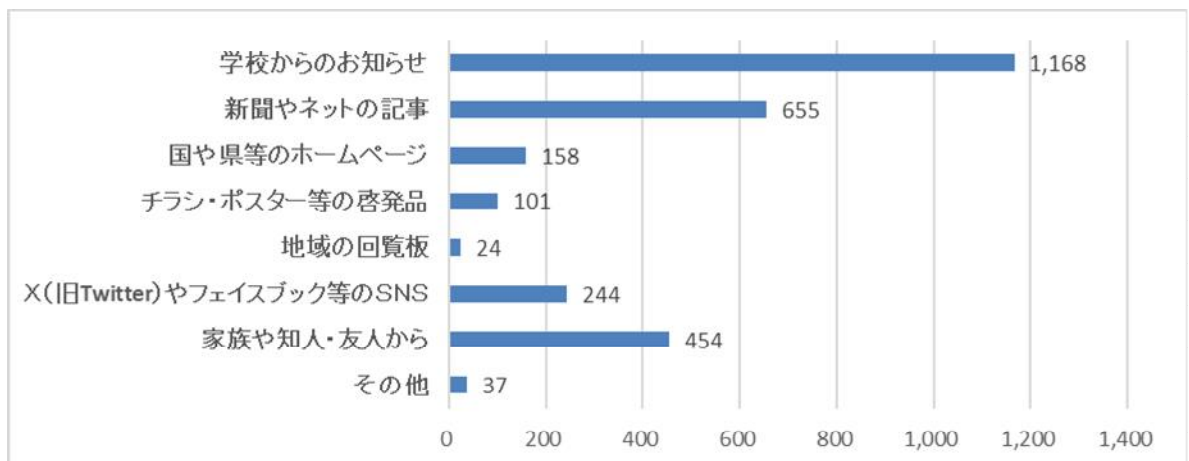
⑤自転車ヘルメットについて

◆自転車に乗る際、ヘルメットの着用が努力義務となっていることを知っていますか。



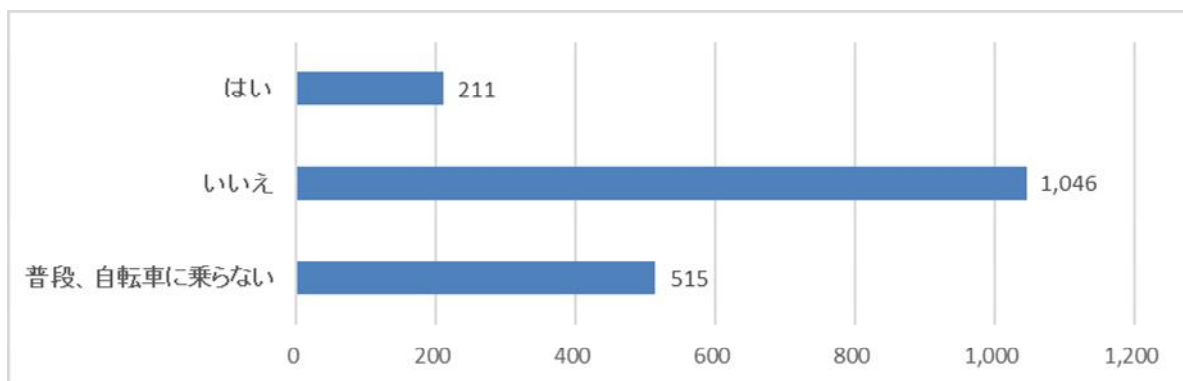
自転車に乗る際のヘルメット着用が努力義務となっていることについて、9割以上の人が知っていることがわかりました。

◆（前の質問で「はい」と回答した人に対して）自転車乗車用ヘルメット着用の努力義務を何で知りましたか（3つまで）。



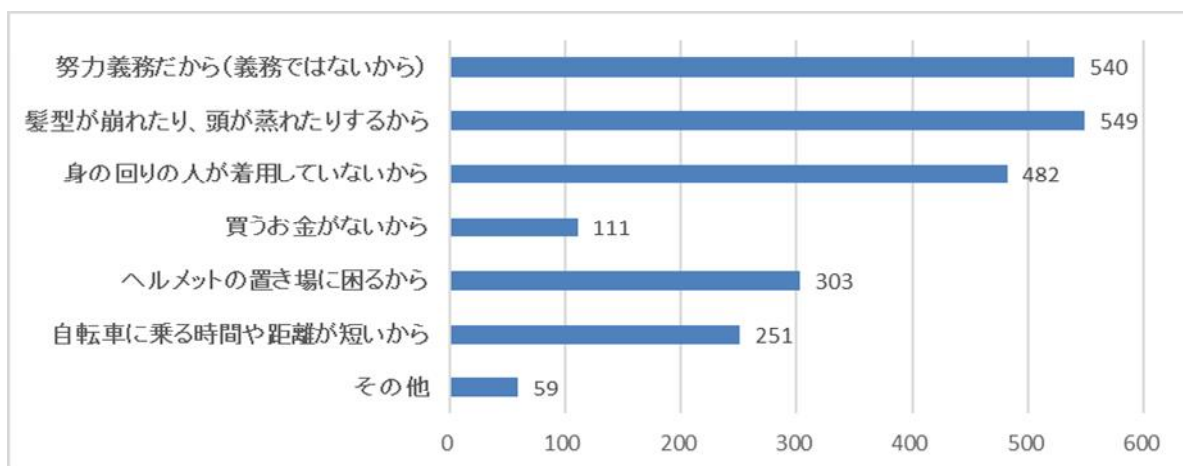
自転車乗車用ヘルメット着用の努力義務化を何で知っているか質問したところ、「学校からのお知らせ」により知った人が最も多く、次いで「新聞やネットの記事」「家族や知人・友人から」知ったと回答した人が多い結果となりました。

◆あなたは、自転車に乗る際ヘルメットをかぶっていますか。



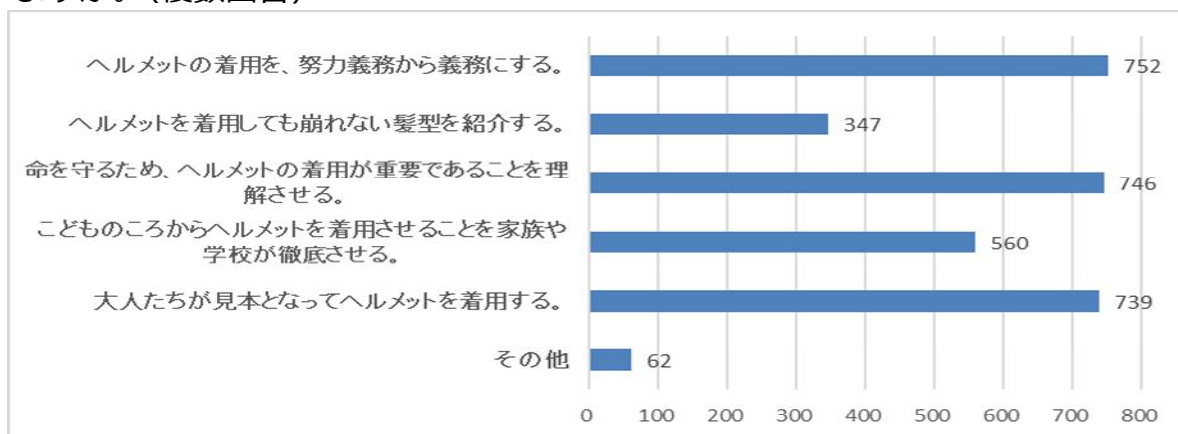
自転車に乗る際にヘルメットをかぶっているかという質問に対して、「いいえ」と回答した人が、「はい」と回答した人の約5倍いることがわかりました。

◆（前の質問で「いいえ」と回答した人に対して）ヘルメットをかぶらない理由を教えてください。（複数回答）



自転車乗車用ヘルメットを着用しない人に理由を聞いたところ、「髪型が崩れたり、頭がむれたりするから」という理由が最も多かったですが、ほぼ同数で「努力義務だから（義務ではないから）」という理由があげられました。次いで「身の回りの人が着用していないから」という結果になりました。

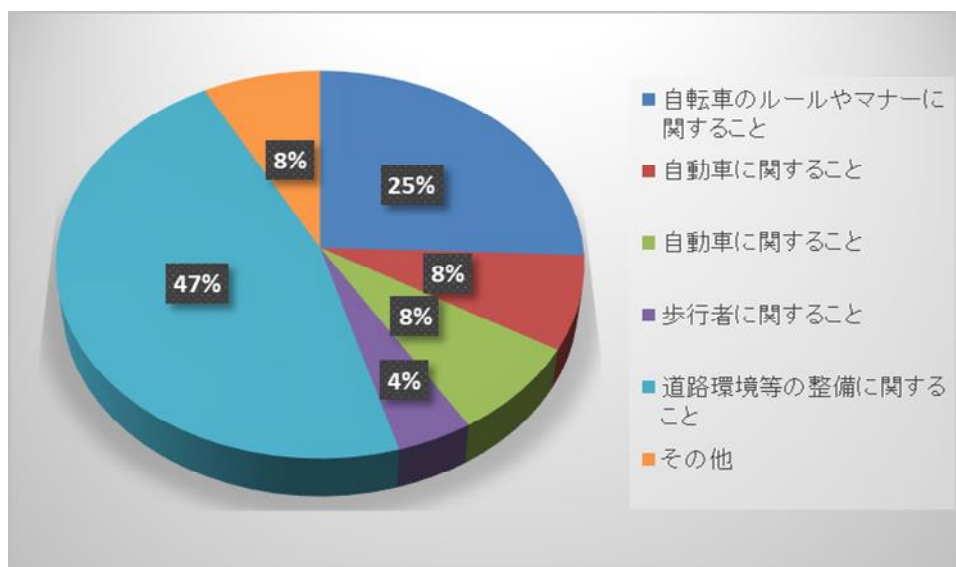
◆千葉県のヘルメットの着用率を向上させるためにはどのような取組が効果的だと思いますか。（複数回答）



千葉県の自転車乗車用ヘルメットの着用率の向上にあたり、効果的な取組を聞いたところ、ほぼ同数で「ヘルメットの着用を、努力義務から義務にする」「命を守るため、ヘルメットの着用が重要であることを理解させる」「大人たちが見本となってヘルメットを着用する」という取組が多数であることがわかりました。次いで、「こどものころからヘルメットを着用させることを家族や学校が徹底させる」取組が効果的であると考え人が多いことがわかりました。

⑥自転車を利用して、日頃感じていること

自転車を利用して、日頃感じていることについて、自由に記述してもらい、「自転車のルールやマナーに関すること」「歩行者に関すること」「自動車に関すること」「道路環境等の整備に関すること」に分類したところ、下のグラフのようになりました。「道路環境等の整備に関すること」が全体の約4割を占め、次いで、「自転車のルールやマナーに関すること」と続きました。



多くの高校生が自由意見の中で述べていたことは、道路環境等の整備や、車との接触の怖さについてである。例えば、「道が狭くて、車が通るのが危ない」「自転車専用レーンが少ないし、路上駐車が多い」「自転車に車道を走れと言われても、実際に走っていると車にクラクションを鳴らされる」「自転車は、歩道、車道のどちらでも邪魔者扱いされる」などの意見がありました。

また、「歩行者側にもルールを守ってほしい」「高齢者の自転車運転は危ない」等の意見や、「自転車の通行ルールが、具体的によくわからない」などの意見がある一方で、一般的なルール（スマホや傘さしは禁止、信号や標識は守らなければならないなど）については、知識としては有している印象を受けました。

アンケート結果からは、今後は、より、交通ルールについての理解を深めるとともに、自転車が利用しやすい道路環境の整備を進めることも重要である、という結果になりました。